

一般質問



スポーツ振興による
地域活性化について
成田 昭浩

スポーツが持つ役割や影響力は、地域を複合的に発展させるものと考えられる。地域経済の発展・活性化を視野に入れたスポーツ振興の必要性、スポーツ観光への考え方、庁内横断的な対応が可能な窓口の一元化について質問。生涯スポーツや各スポーツ団体などの取り組みは活発に行われているが、地域活性化へは意図的、戦略的に結びついていない現状である。今後は市の特色や地域資源などを考慮し、将来的な展望を掲げ、スポーツによる地域振興を考えてみたいとの答弁があった。



「暴力」のない
まちづくり
辻 弘之

児童・高齢者・障がい者への虐待やいじめ、DVなどの「暴力」が抱える問題への包括的支援体制を整備すべきと質問。障がい者虐待相談窓口の設置、DV基本計画を策定する考えが示された。児童虐待相談者の半数以上がDV相談者でもあるなど、虐待・暴力は分野をまたいだ問題となっていることから、市と市民の責務を補完した包括的な条例の整備を求めた。そのほかNPO法改正・新寄付税制を受け、市条例による個別指定を提案し、制度導入について検討することとなった。

補正予算審査

木村 俊子

登別・洞爺広域観光協議会のファミトリップ事業への当市の負担金は約136万円であるが、他市町の負担金について質問。室蘭市は約75万円、伊達市は約65万円、白老町は約42万円であり、事業対象は韓国・台湾の旅行会社やメディア関係者であるとの回答があった。

辻 弘之

SOSネットワーク構築事業に関して、徘徊者搜索模擬訓練の具体案を確認。認知症を患う方を地域で支える仕組みづくりに向けて、継続的な事業展開を求めた。また、訓練時においては「コミュニケーション」など、さまざまな社会資源が参加・活用されるよう提案した。

石山 正志

カルルス温泉スキー場事業特別会計で計上した圧雪車更新事業費は、2千300万円以上の高額である。現在2台ある圧雪車のこれまでの稼働・運行体制や整備・修理体制について見直しを行い、1台稼働の可能性や残る1台の延命に全力で対応すべきだと提言した。

天神林 美彦

カルルス温泉スキー場の圧雪車更新事業費に関して、市バスや公用車が保有からリースへ切り替えている現状を踏まえ、次に更新が発生するもう1台の圧雪車においては、レンタルなども含め、修繕費のかからない対策が必要であると提案した。

工藤 俱二雄

緊急誘客特別対策事業補助金について質問し、道内のテレビCMや韓国の観光新聞など、観光誘客に必要な事業であることを確認した。カルルス温泉スキー場圧雪車更新事業では、車両の必要性・金額について質問し、平成20年車を購入することを確認した。

登別地獄まつりに参加

今年で48回を迎えた登別地獄まつりに「鬼踊り大群舞」に議員会が参加しました。

踊りの練習を重ねた豊水まつりが中止になったこともあり、今回は鬼踊りコンテスト団体戦に出場し、優勝を目指しました。おそろいの浴衣姿に鬼はんとを羽織り、声を合わせパワー全開で踊りましたが、残念ながら入賞を逃しました。

翌日は、閻魔大王からくり山車を先導する「地獄大行列」に参加。

閻魔大王に扮して極楽通りを練り歩き、沿道の市民や観光客と交流を深めました。



▲「地獄大行列」に参加

「元鬼」な登別経済を築こう!! フォーラムを開催

7月30日に市民会館で、観光・経済委員会主管による「元鬼」な登別経済を築こう!! フォーラム、新たな視点で地域経済の活性化を考える」を開催しました。

地域経済の活性化は従来の取り組みでは難しいと考えられ、フォーラムから新たな切り口を見いだし「元鬼」な登別経済を築く一歩を踏み出したとの考えから開催したものです。

ふるまのまちづくり(株)代表取締役の西本伸顕さんによる「富良野発! 地域経済活性化とフラノ・マルシェ」の基調講演では、まちがどこへ向かって行くのか、そのコンセプトと構想を議論と行動で築く必要があること、行政はサポート役であり、行政任せのまちづくりから民間主導のまちづくりの大切さなどが提起されました。その後、登別厚生年金病院院長の成田寛志さん、(株)アール・アンド・イー代表取締役の北山茂一さん、(株)のぼりべつ酪農館代表取締役の三浦学さんをパネラーとしてパネルディスカッションが行われ、それぞれの立場から経済活性化に向けた意見が出されました。

今回のフォーラムを参考として、より一層わがまちの地域経済活性化への取り組みをしなければならぬと強く感じました。